



勢語臆斷

一



○序
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

あやせしきよの娘の道より
白鳥春日社よまじりなまの御大和守忠房
二十首のうたの中

あやせしきよの娘の道より
白鳥春日社よまじりなまの御大和守忠房
二十首のうたの中

あやせしきよの娘の道より
白鳥春日社よまじりなまの御大和守忠房
二十首のうたの中

あやせしきよの娘の道より
白鳥春日社よまじりなまの御大和守忠房
二十首のうたの中

あやせしきよの娘の道より
白鳥春日社よまじりなまの御大和守忠房
二十首のうたの中

知
あやせしきよの娘の道より
白鳥春日社よまじりなまの御大和守忠房
二十首のうたの中

とすいたらふる事なるに
いづれをみても
たれらるる事なり
かたまたま
わづらひ
けい

いづれをみても
たれらるる事なり
かたまたま
わづらひ
けい
いづれをみても
たれらるる事なり
かたまたま
わづらひ
けい
いづれをみても
たれらるる事なり
かたまたま
わづらひ
けい

いづれをみても
たれらるる事なり
かたまたま
わづらひ
けい
いづれをみても
たれらるる事なり
かたまたま
わづらひ
けい
いづれをみても
たれらるる事なり
かたまたま
わづらひ
けい
いづれをみても
たれらるる事なり
かたまたま
わづらひ
けい

ついでに... 万葉集第五

梅の... 梅の... 梅の...

とある... 梅の... 梅の... 梅の...

二段... 梅の... 梅の... 梅の...

桓武天皇延暦三年... 梅の... 梅の... 梅の...

知云 文徳天皇の... 梅の... 梅の... 梅の...

ついでに... 梅の... 梅の... 梅の...

梅の... 梅の... 梅の... 梅の... 梅の...

梅の... 梅の... 梅の... 梅の... 梅の...

○勢語臆断一

トノミタの皇太后がたのむはたのむはたのむはたのむは

たのむはたのむはたのむはたのむはたのむはたのむはたのむは
たのむは

たのむはたのむはたのむはたのむはたのむはたのむはたのむは
たのむはたのむはたのむはたのむはたのむはたのむはたのむは

たのむはたのむはたのむはたのむはたのむはたのむはたのむは

たのむはたのむはたのむはたのむはたのむはたのむはたのむは
たのむはたのむはたのむはたのむはたのむはたのむはたのむは
たのむはたのむはたのむはたのむはたのむはたのむはたのむは
たのむはたのむはたのむはたのむはたのむはたのむはたのむは

知云

清和のみや

位よせしむ

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

たのむはたのむは

友持集
 の月よそせ
 もあはしい
 みるる

初ねたまの年時集梅のさつりおの梅のさつりるお
 ころころころころころころころころころころころころころ
 ころころころころころころころころころころころころころ
 ころころころころころころころころころころころころころ
 ころころころころころころころころころころころころころ

月のさつりるおの梅のさつりるおの梅のさつりるおの梅の
 さつりるおの梅のさつりるおの梅のさつりるおの梅のさつりる
 おの梅のさつりるおの梅のさつりるおの梅のさつりるおの梅の

月よそせ
 さつりるおの梅のさつりるおの梅のさつりるおの梅のさつりる
 おの梅のさつりるおの梅のさつりるおの梅のさつりるおの梅の
 さつりるおの梅のさつりるおの梅のさつりるおの梅のさつりる
 おの梅のさつりるおの梅のさつりるおの梅のさつりるおの梅の

友持集
 の月よそせ
 もあはしい
 みるる

初ねたまの年時集梅のさつりおの梅のさつりるお
 ころころころころころころころころころころころころころ
 ころころころころころころころころころころころころころ
 ころころころころころころころころころころころころころ

新勅撰

俊成卿

梅のさつりるおの梅のさつりるおの梅のさつりるおの梅の
 さつりるおの梅のさつりるおの梅のさつりるおの梅のさつりる
 おの梅のさつりるおの梅のさつりるおの梅のさつりるおの梅の

十月去衛將適陳過匡顏淵為僕以其策指之曰昔吾
 入此由彼缺也琴操云孔子到匡郭外顏淵舉策指
 匡穿垣曰往與陽貨正從此入枕子人子何者下
 也つられとつれ源氏物語須磨子也白たつらなりく
 とつれとつれさきさきたし人たむ信あきよのぬらひかみ
 たりてあつかさしあるゑあてとめあてはしすい
 らしむらぬ

人あけくもつらぬこちひうごわりのたし
 六帖
 賢木よこそひてたひらやうつれたもあきつら
 ありて入もあて

つらむらけりあきつらにあて人あてはしすい

これハ彼男のけいもえわてつらりちまはてしある

万葉十八家持

これとつらとつらみ園よりすよりりあてはしすい

古今三三業平
 人まればあてはしすい園よりりあてはしすい

伊勢集

あてはしすい園よりりあてはしすい

あてはしすい園よりりあてはしすい

家隆御

あてはしすい園よりりあてはしすい

あてはしすい園よりりあてはしすい

あてはしすい園よりりあてはしすい

あてはしすい園よりりあてはしすい

長幸於撰洋國作之

しめるおもひの袖のしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひ
 列すはらひしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひ
 後もまたおくれはらひしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひ
 こゝろのちみんしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひ
 ちみんしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひ
 かたけのわがすもまはらひしむはらひしむはらひしむはらひ
 しむはらひしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひ
 ちみんしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひ
 のちみんしむはらひ

新古今集哀傷在京業平朝臣のこころのちみんしむはらひ
 えせの集

果てはらひしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひ
 られし二業后のこころのちみんしむはらひしむはらひしむはらひ
 みはらひしむはらひ

こころの作者のしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひ
 御女深敏后の忠仁のちみんしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひ
 ちみんしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひ

かたけのちみんしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひ
 遊仙窟子可愛とめしたるちみんしむはらひ

御せし堀河のちみんしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひ
 らしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひ
 こころのちみんしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひしむはらひ

いさくくそ名のいんかきしけしきまなり

堀河のちの昭宣より官位を承けられたり
れりちり國経の後にさきも兄を承けられたり
とかく思ふなりなりなりなり作者のうらみ
くほくわんなんのあはれなるなりなり業平の日記
みかきしきなりなりなりなりなりなり東坡
赤鮮賦自註なりなりなりなりなりなりなり

七段
よしきなり

かきしきなりなりなりなりなりなりなりなり
業平の國をたのむなりなりなりなりなりなり
今も載れりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

かきしきなりなりなりなりなりなりなりなり
祥二年二月丙辰朔壬戌授無位在原業平後五位下此
時五采也三代實録第六卷貞觀四年三月七日乙亥
授正六位上在原朝臣業平後五位上此時二十八
采也文德實録第一卷也なりなりなりなりなりなり
叙せんとするなりなりなりなりなりなりなりなり
位なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
このくわんなんの執事なりなりなりなりなりなり
保親の子なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

伊勢尾張のわきの海ついでゆきなりなりなりなり

と

ら〜海邊にあり川〜流るるまは〜
ら〜海邊にあり川〜流るるまは〜
ら〜海邊にあり川〜流るるまは〜
ら〜海邊にあり川〜流るるまは〜
ら〜海邊にあり川〜流るるまは〜
ら〜海邊にあり川〜流るるまは〜
ら〜海邊にあり川〜流るるまは〜
ら〜海邊にあり川〜流るるまは〜
ら〜海邊にあり川〜流るるまは〜
ら〜海邊にあり川〜流るるまは〜

い〜しくすれやか〜おき〜らん〜
い〜しくすれやか〜おき〜らん〜
い〜しくすれやか〜おき〜らん〜
い〜しくすれやか〜おき〜らん〜
い〜しくすれやか〜おき〜らん〜
い〜しくすれやか〜おき〜らん〜
い〜しくすれやか〜おき〜らん〜
い〜しくすれやか〜おき〜らん〜
い〜しくすれやか〜おき〜らん〜
い〜しくすれやか〜おき〜らん〜

後撰^{後撰} 行雲思故山
後撰^{後撰} 行雲思故山
後撰^{後撰} 行雲思故山
後撰^{後撰} 行雲思故山
後撰^{後撰} 行雲思故山
後撰^{後撰} 行雲思故山
後撰^{後撰} 行雲思故山
後撰^{後撰} 行雲思故山
後撰^{後撰} 行雲思故山
後撰^{後撰} 行雲思故山

ひ〜男らりもり系やす〜うかり〜
ひ〜男らりもり系やす〜うかり〜
ひ〜男らりもり系やす〜うかり〜
ひ〜男らりもり系やす〜うかり〜
ひ〜男らりもり系やす〜うかり〜
ひ〜男らりもり系やす〜うかり〜
ひ〜男らりもり系やす〜うかり〜
ひ〜男らりもり系やす〜うかり〜
ひ〜男らりもり系やす〜うかり〜
ひ〜男らりもり系やす〜うかり〜

信
信
信
信
信
信
信
信
信
信

濃國ら〜まのけ〜み〜り〜
濃國ら〜まのけ〜み〜り〜
濃國ら〜まのけ〜み〜り〜
濃國ら〜まのけ〜み〜り〜
濃國ら〜まのけ〜み〜り〜
濃國ら〜まのけ〜み〜り〜
濃國ら〜まのけ〜み〜り〜
濃國ら〜まのけ〜み〜り〜
濃國ら〜まのけ〜み〜り〜
濃國ら〜まのけ〜み〜り〜

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

九段

~~~~~

~~~~~

~~~~~

いさま

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~













らふかおつ

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

五集二十

順集

らふかおつ  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

拾遺  
六作

齊宮集  
和泉式部

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

とく久しうにちち舟こすりてりらあり

舟のしらぬふかりけり莊子云舉世而譽之不加勤  
註舉皆也日本紀第二十五云秋七月被遣大唐使  
人高田根麻呂等於薩摩之曲竹島之門合船没死  
事ありとてさうかすてつて修信をさうばんとす

新拾遺歌

後成心

角内川ちつとてふたぎるは後どうちつたうり

そとへはひびきつてよはままてつひあつともあつとて(國  
みらる女とてひびきつてつて人よらひとらひもは母じんあ  
てけりへもつけれりもあつたなつてんも母じん孫あな  
つとあつとつてつてつてつてつてつてつてつてつて

ちつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

直らつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
人かりあつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
最原とつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

むこうの舟の雲量りつとつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
いよほあつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
そつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
源氏末通女ながらつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
いすひぬまは事つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

住こつちつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて



~~~~~

同上在百葉平期臣

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

十二段

~~~~~

~~~~~

~~~~~

拾遺集雜上橋直幹拾遺雜上

~~~~~





あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに

あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに  
あはれなる心はなほわがこころに









~~~~~~

十五段

~~~~~~

~~~~~~

~~~~~~

~~~~~~

あ~~~~~

あ~~~~~

あ~~~~~

あ~~~~~

ち~~~~~

新編撰意五在原崇平御長信美山

か~~~~~

~~~~~

~~~~~

あ~~~~~

あ~~~~~

~~~~~

あ~~~~~

あ~~~~~

あ~~~~~

あ~~~~~

あ~~~~~

あ~~~~~

其段  
いづれかのけりけりともいふありありとあまがまつるゆり  
てとれまのいれれとのらむ世かたり時つるまきぬる

三代の帝と仁明文徳清和なり或は淳和仁明文徳  
の三朝を清和なりて清和天皇は朝をあらうておとろし  
りてとれまのいれれとのらむ世かたり時つるまきぬる  
かへていふなり三代實録第三十云元慶元年正月  
廿二日乙未從四位下周防推守紀朝臣有常卒有  
常左京人正四位下名虎之子也性清警有儀望少  
年侍奉仁明天皇承和中擢拜左兵衛大尉數年右  
近衛權將監兼近江推少掾云々貞觀九年為下野  
推守秩滿為信濃推守十五年授正五位下十七年  
為雅樂頭十八年至從四位下為周防推守卒時年

六十三以上

始後仁奉て文徳天皇は御世の昇進と思せり元慶  
元年より送みかき終る承和元年ハ有常十九歳な  
れ少年侍奉仁明天皇といふかきかひて淳和天皇  
まいつるも終る事ゆき又貞觀のときよりや  
官位の昇進をともはふとらん之終りのおはれ  
りて家の名一かり書をかくいひせり云々實録より  
さるく史傳を合せて知る一世より時つるまきぬる  
陳鴻長恨歌傳云時移車去樂盡悲未  
あつひぬらんもいれれ人のいれれらんくわて  
かりていれれれれれれれれれれれれれれれれれれ  
りし時のいれれれれれれれれれれれれれれれれれれ

しむるの人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば

しむるの人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば  
おもしろい事なれば平人の心もさうさうな事なれば

六部  
勢語臆断

いふはなほつらつらなりきりてはつらなるまはる  
尼の教來てしつとあまかたはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる

あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる

あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる

あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる  
あつらへてつらつらなりきりてはつらなるまはる





あはれにきりぎりす  
はげしき風ぞ吹くをりて  
かぎりなき風ぞ吹くをりて  
あはれにきりぎりす  
はげしき風ぞ吹くをりて  
かぎりなき風ぞ吹くをりて  
あはれにきりぎりす  
はげしき風ぞ吹くをりて  
かぎりなき風ぞ吹くをりて  
あはれにきりぎりす  
はげしき風ぞ吹くをりて  
かぎりなき風ぞ吹くをりて

あはれにきりぎりす  
はげしき風ぞ吹くをりて  
かぎりなき風ぞ吹くをりて  
あはれにきりぎりす  
はげしき風ぞ吹くをりて  
かぎりなき風ぞ吹くをりて  
あはれにきりぎりす  
はげしき風ぞ吹くをりて  
かぎりなき風ぞ吹くをりて  
あはれにきりぎりす  
はげしき風ぞ吹くをりて  
かぎりなき風ぞ吹くをりて

あはれにきりぎりす  
はげしき風ぞ吹くをりて  
かぎりなき風ぞ吹くをりて  
あはれにきりぎりす  
はげしき風ぞ吹くをりて  
かぎりなき風ぞ吹くをりて  
あはれにきりぎりす  
はげしき風ぞ吹くをりて  
かぎりなき風ぞ吹くをりて  
あはれにきりぎりす  
はげしき風ぞ吹くをりて  
かぎりなき風ぞ吹くをりて  
あはれにきりぎりす  
はげしき風ぞ吹くをりて  
かぎりなき風ぞ吹くをりて



